

清水の風光と近代宗教家たち

- 平成 25 年 8 月 28 日(水)
- 時間:午後 1 時 30 分~5 時
- 会場:龍華寺(龍華寺客殿) ※住所:静岡県静岡市清水区村松 2085
- 主催:静岡大学(人文社会科学部)
- 共催:龍華寺 □後援:静岡市
- 対象:市民 (申し込みは不要です)
- 参加費:無料(公開講座参加者は当日限り拝観料無料)

■清水の風光

三保松原が、富士山世界文化遺産の構成資産として登録されたように、清水は富士山を借景とした風光明媚な場所として、多くの先人たちに愛されてきた土地柄である。

中でも、三保松原の海岸や日本平からの富士山の眺めは、多くの人々に感動を与えてきた。

特に、日本平東麓にある龍華寺は、山号を観富山といい、清水を代表する古刹名勝の一つとして、富士山の眺めの良い場所として多くの人々に親しまれてきた場所である。



観富山龍華寺

須弥山式庭園から見た本堂と富士山

■近代宗教家たち

清水は温暖な気候と景観の美しさで、多くの政治家、経済人、文化人、宗教家を呼び、さまざまな出会いと因縁の場となってきた。

明治の思想家、高山樗牛は遺言により龍華寺に葬られ、田中智学は三保に最勝閣を建て、樗牛の心友、姉崎嘲風はこの地を何度も訪れている。

神道家、長澤雄楯は、三保で神界と交流し、その弟子、宮城島金作は怪異を起こした。長澤のもう一人の弟子、出口王仁三郎は大本教を日本有数の宗教に育て、そこから谷口雅春、岡田茂吉、中野与之助といった宗教家が世に出てきた。近代清水が宗教界に残したものは大きい。

講演の内容

- 挨拶・趣旨説明・司会 小二田誠二(静岡大学教授)
- 『幻の宗都としての清水—田中智学と三保最勝閣』大谷栄一(佛教大学准教授) 30分
- 『高山樗牛・姉崎嘲風と帝国大学周辺の仏教青年達』高橋原(東北大学准教授) 30分
- 『宗教都市、清水—知られざる信仰遺産』吉永進一(舞鶴高等専門学校准教授) 30分
- 『富士山に魅了された文人たちの清水』本阿弥清(多摩美大芸術人類学研究所特別研究員) 30分
- まとめ 林淳(愛知学院大学教授)
- 小倉弘運住職と講演者との座談

<問い合わせ先>

静岡大学人文社会科学部言語文化学科

小二田誠二

Email: jjskoni@ipc.shizuoka.ac.jp